

2010年8月における
線維筋痛症の
1990年基準と
2010年基準の使用
状況および使用
予定

戸田克広

2010年8月における線維筋痛症の1990年基準と2010年基準の使用状況および使用予定

まとめ

13th World Congress on Painで質問をした42人中35人（83.3%）が10年基準を知っていた。10年基準を使用しているかどうか尋ねた34人中、使用している者は4人（12%）、未使用は30人（88%）であった。今後の使用を尋ねた34人中、8人（23.5%）は不明、3人（8.8%）は90年基準のみ、16人（47.1%）は両方、7人（20.6%）は10年基準のみを使用する予定と答えた。

廿日市記念病院リハビリテーション科

戸田克広

緒言

1990年のアメリカリウマチ学会（ACR）による分類基準（90年基準）[1]が実質的に線維筋痛症（FM）のほぼ唯一の診断基準であった[2]。2010年にACRから新たな診断基準案（10年基準）[3]が出された。その報告から約3か月後に開かれた13th World Congress on Painにおける状況を調べた。

方法

CongressにおいてFMの一般演題を出している演者に診断基準の使用状況、使用予定、基準の優劣を口頭で尋ねた。

結果

質問をした42人中35人（83.3%）が10年基準を知っていた。（図1）

10年基準を使用しているかどうか尋ねた34人中、使用している者は4人（12%）、未使用は30人（88%）であった。（図2）

今後の使用を尋ねた34人中、3人（8.8%）は90年基準のみ、16人（47.1%）は両方、7人（20.6%）は10年基準のみを使用する予定と答え、8人（23.5%）は不明であった。（図3）

どちらの基準が優れているかを尋ねた27人中、8人（29.6%）は90年基準が優れている、14人（51.9%）は10年基準が優れている、1人（3.7%）は優劣はないと答え、4人（14.8%）では不明であった。（図4）

図1. 2010年基準を
知っていますか

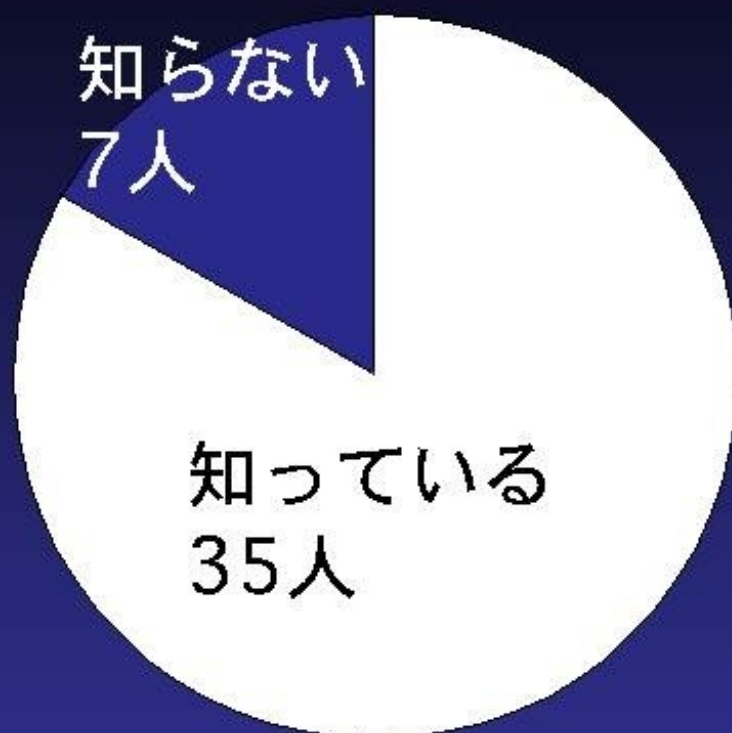


図2. 2010年基準を
使っていますか



図3. 今後の使用予定

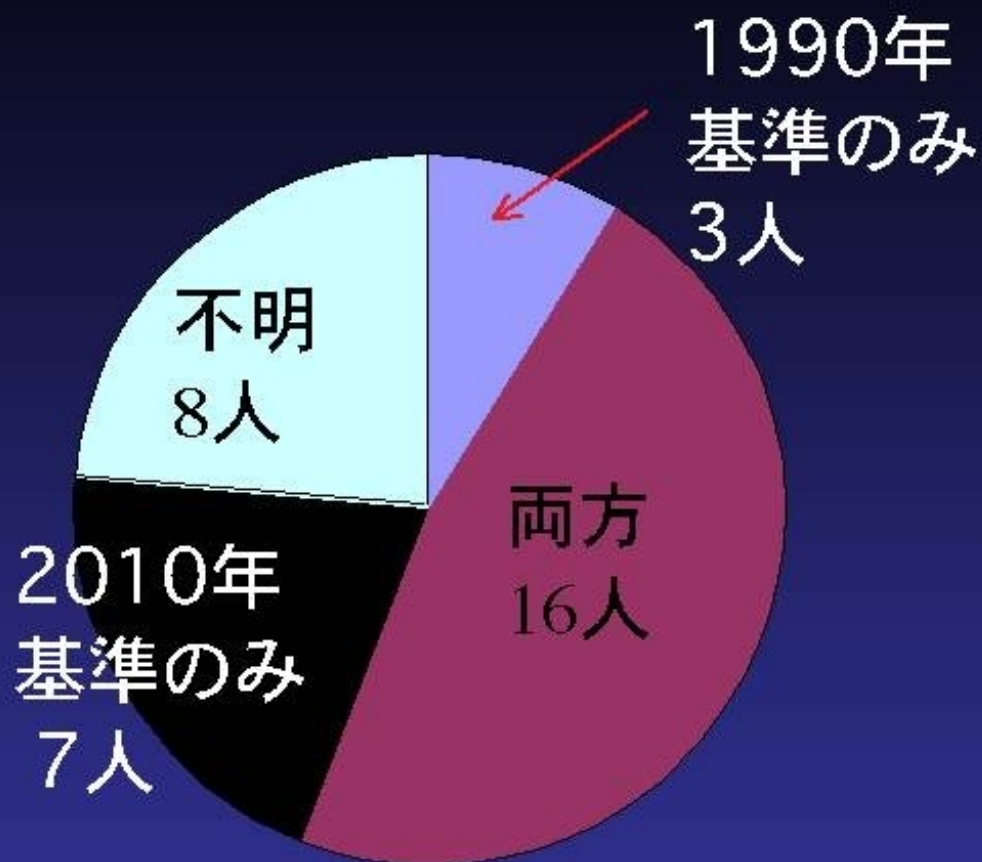
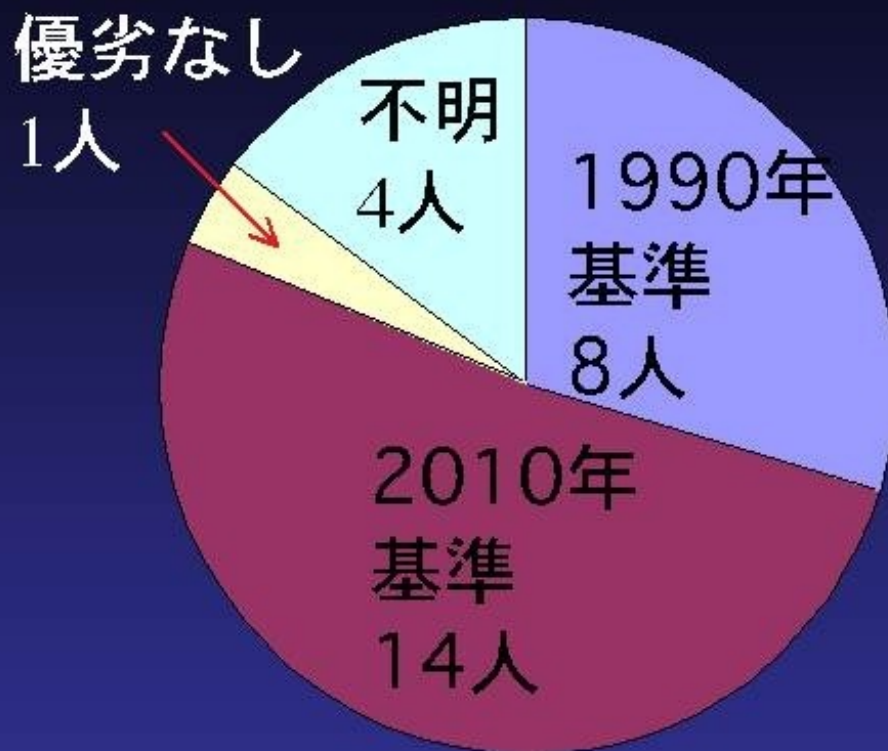


図4. どちらが優れていますか



考察

10年基準は圧痛点の診察を廃止し、痛みの範囲と疲労感・覚醒時にすっきりしない・認知症状の重症度、およびその他の症状により診断される。しかし2011年に新たな診断基準案（11年基準）[4]が報告された。11年基準は10年基準の簡略版である。ACRは11年基準を承認していない。10年基準も11年基準も他の疾患で症状を説明できる場合にはFMとは診断しないという条件がついた[3-4]。演者は90年基準と同様に他の疾患が存在しても基準を満たせば自動的にFMと診断できるようにしていただきたいという要望をしたが、拒否された[5]。

10年基準では痛みの範囲も症状の有無も医師が患者にインタビューする必要があり[4]、それを励行すると膨大な時間がかかる。また症状の数は医師の主観で判断するという欠点がある[6]。10年基準において痛みの範囲、症状の有無、程度を患者が記載する偽10年基準が10年基準の代用として用いられるかもしれない。11年基準は痛みの範囲や症状の有無、程度を患者が記載することが可能である。筆頭著者のWolfe医師自身にぶれがあるが、10年基準は臨床用診断基準、11年基準は研究用診断基準として作成されている[7]。ただし、世界ではFMの不全型であるchronic widespread pain（CWP）には通常FMと同じ治療が行われており[8]、CWPやその不全型であるchronic regional pain（CRP）にFMと同じ治療を行えばFM以上の治療成績を得ることができる[9]。FMであろうがその不全型であろうが同じ治療を行うのであれば臨床用診断基準はほとんど意義がない[10]。

90年基準は廃止ではなく使用可能であり[3-4]、三つの基準が並存することになる。今後の使用状況を注目したい。FMであろうがその不全型であろうが同じ治療を行うのであれば、どの基準を用いても臨床現場での治療には影響がほとんどない。影響があるのは学会発表や論文作成の場面である。演者は現時点では90年基準のみを使用している。90年基準で特に不自由がないこと、診断基準を変更すると過去のデータの取り扱いが困難になること、診断基準を変更するとFM、CWP、CRPの関係が崩れてしまうことがその理由である。

まとめ

13th World Congress on Painで質問をした42人中35人（83.3%）が10年基準を知っていた。10年基準を使用しているかどうか尋ねた34人中、使用している者は4人

(12%)、未使用は30人(88%)であった。今後の使用を尋ねた34人中、8人(23.5%)は不明、3人(8.8%)は90年基準のみ、16人(47.1%)は両方、7人(20.6%)は10年基準のみを使用する予定と答えた。

引用文献

- 1) Wolfe F, Smythe HA, Yunus MB, Bennett RM, Bombardier C, Goldenberg DL, Tugwell P, Campbell SM, Abeles M, Clark P, Fam AG, Farber SJ, Fiechtner JJ, Franklin CR, Gatter RA, Hamaty D, Lessard J, Lichtbroun AS, Masi AT, McCain GA, Reynolds WJ, Romano TJ, Russell IJ, Sheon RP: The American College of Rheumatology 1990 Criteria for the Classification of Fibromyalgia. Report of the Multicenter Criteria Committee. *Arthritis Rheum.* 33: 160-172, 1990.
- 2) 戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.
- 3) Wolfe F, Clauw DJ, Fitzcharles MA, Goldenberg DL, Katz RS, Mease P, Russell AS, Russell IJ, Winfield JB, Yunus MB: The American College of Rheumatology preliminary diagnostic criteria for fibromyalgia and measurement of symptom severity. *Arthritis Care Res (Hoboken).* 62: 600-610, 2010.
- 4) Wolfe F, Clauw DJ, Fitzcharles MA, Goldenberg DL, Hauser W, Katz RS, Mease P, Russell AS, Russell IJ, Winfield JB: Fibromyalgia Criteria and Severity Scales for Clinical and Epidemiological Studies: A Modification of the ACR Preliminary Diagnostic Criteria for Fibromyalgia. *J Rheumatol.* 38: 1113-1122, 2011.
- 5) Toda K: The modification of the american college of rheumatology preliminary diagnostic criteria for fibromyalgia should be supplemented and revised. *J Rheumatol.* 38: 2075; author reply 2076, 2011.
- 6) Toda K: Preliminary diagnostic criteria for fibromyalgia should be partially revised: comment on the article by Wolfe et al. *Arthritis Care Res (Hoboken).* 63: 308-309; author reply 309-310, 2011.
- 7) Toda K: What is the purpose of the 2011 criteria for fibromyalgia? *Ann Med.* 43: 660; author reply 661, 2011.
- 8) Toda K: Treatment of chronic widespread pain is similar to treatment of fibromyalgia throughout the world. *J Musculoskelet Pain.* 18: 317-318, 2010.
- 9) 戸田克広: 線維筋痛症と chronic widespread pain (CWP) ・ 不全型CWPの治療成績

の比較. 臨整外. 44: 1203-1207, 2009.

10) Toda K: Purpose and significance of the 2010 criteria and modification of the 2010 criteria for fibromyalgia. J Rheumatol. 39: 1294, 2012.

著者紹介

著者紹介

戸田克広（とだかつひろ）

1985年新潟大学医学部医学科卒業。元整形外科医。2001年から2004年までアメリカ国立衛生研究所（National Institutes of Health: NIH）に勤務した際、線維筋痛症に出会う。帰国後、線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や原因不明の痛みの治療を専門にしている。2007年から廿日市記念病院リハビリテーション科（自称慢性痛科）勤務。『線維筋痛症がわかる本』（主婦の友社）を2010年に出版。電子書籍『抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、抗不安薬の罣、日本医学の闇—』<http://p.booklog.jp/book/62140>を2012年に出版。ブログにて線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や痛みの情報を発信している。実名でツイッターをしている。

ツイッター：@KatsuhikoTodaMD

実名でツイッターをしています。キーワードに「線維筋痛症」と入れればすぐに私のつぶやきが出てきます。痛みや抗不安薬に関する問題であれば遠慮なく質問して下さい。私ができる範囲でお答えいたします。

電子書籍：抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、精神安定剤の罣、日本医学の闇—<http://p.booklog.jp/book/62140>

日本医学の悪しき習慣である抗不安薬の使用方法に対する内部告発の書籍です。276の引用文献をつけています。2012年の時点では抗不安薬による常用量依存に関して最も詳しい日本語医学書です。医学書ですが、一般の方が理解できる内容になっています。

・戸田克広：「正しい線維筋痛症の知識」の普及を目指して!—まず知ろう診療のポイント—. CareNet 2011

<http://www.carenet.com/conference/qa/autoimmune/mt110927/index.html>

薬の優先順位など、私が行っている線維筋痛症の最新の治療方法を記載してい

ます。

英語の電子書籍です。

Physicians in the chronic pain field should participate in nosology and diagnostic criteria of medically unexplained pain in the Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders-6

http://www.amazon.com/participate-unexplained-Statistical-Disorders-6-ebook/dp/B00BH2QJG4/ref=sr_1_2?s=digital-text&ie=UTF8&qid=1361180502&sr=1-2&keywords=katsuhiro+Toda

医学的に説明のつかない痛みを精神科医は身体表現性障害と診断し、痛みの専門家は線維筋痛症あるいはその不完全型と診断しています。治療成績は後者の方がよいと推測されます。2013年に精神科領域の世界標準の診断基準であるDSM-5が運用予定です。次のDSM-6では医学的に説明のつかない痛みに対する分類や診断基準を決める際には痛みの専門家を加えるべきです。

Focus on chronic regional pain and chronic widespread pain_Unification of disease names of chronic regional pain, chronic widespread pain, and fibromyalgia_

http://www.amazon.com/regional-widespread-pain_Unification-fibromyalgia_-ebook/dp/B00BH0GK7O/ref=sr_1_1?s=digital-text&ie=UTF8&qid=1361180502&sr=1-1&keywords=katsuhiro+Toda

線維筋痛症の不完全型である慢性広範痛症や慢性局所痛症と線維筋痛症を区別する臨床的意義はありません。

・戸田克広: 線維筋痛症の基本. CareNet 2012

<http://www.carenet.com/special/1208/contribution/index.html>

さらに最新の情報を記載しています。

ブログ：[腰痛、肩こりから慢性広範痛症、線維筋痛症へー中枢性過敏症候群ー](http://fibro.exblog.jp/) 戸田克広 <http://fibro.exblog.jp/>

線維筋痛症を中心にした中枢性過敏症候群や抗不安薬による常用量依存などに関する最新の英語論文の翻訳や、痛みに関する私の意見を記載しています。

線維筋痛症に関する情報

戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.

医学書ではない一般書ですが、引用文献を400以上つけており、医師が読むに耐える一般書です。

電子書籍

通常の書籍のみならず電子書籍もあります。

電子書籍（アップル版、アンドロイド版、パソコン版）

<http://bukure.shufunotomo.co.jp/digital/?p=10451>

通常の書籍、電子書籍（kindle版）

http://www.amazon.co.jp/%E7%B7%9A%E7%B6%AD%E7%AD%8B%E7%97%9B%E7%97%87%E3%81%8C%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8B%E6%9C%AC-ebook/dp/B0095BMLE8/ref=tmm_kin_title_0

電子書籍（XPDF形式）

<http://books.livedoor.com/item/4801844>

2010年8月における線維筋痛症の1990年基準と2010年基準の使用状況および使用予定

著者：戸田克広（とだかつひろ）

2013年3月18日 第1版第1刷発行

<http://p.booklog.jp/book/68368>

著者：戸田克広

発行者：吉田健吾

発行所：株式会社ブックログ

〒150-8512東京都渋谷区桜丘町26-1 セルリアンタワー

<http://booklog.co.jp>

2010年8月における線維筋痛症の1990年基準と2010年基準の使用状況および使用予定

<http://p.booklog.jp/book/68368>

著者：戸田克広

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/katsuhitodamd/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/68368>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/68368>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ